

Hamagin mini Report

2014.3

横浜銀行ミニ・ディスクロージャー誌

トップインタビュー

新中期経営計画／地盤としての神奈川県／
地域戦略／株主の皆さまへ

頭取 寺澤辰磨が、
横浜銀行の『いま』を語ります。

はまぎんの1年間を振り返る

はまぎん歴史館


地域とともに歩んできたはまぎん

株主の皆さまとともに

IR担当者からのメッセージ



Bank of Yokohama



お客様の問題解決に
資するソリューションを提供し、
お役に立つことで、お客様に
選ばれる銀行をめざします。

私たちの約束

お客さま一人ひとりに、
最もふさわしい金融サービスとの出会いを、
あたらしく創りあげていきます。

健全性、収益性、成長性の
バランスが取れた銀行を
めざします。

特に、地域のお客さまとの
接点拡大・取引の深化を
追求し、さらなる成長を
めざします。

PROFILE

名称	株式会社 横浜銀行 The Bank of Yokohama,Ltd. (英語表記)
創立	1920年12月16日
本店	神奈川県横浜市西区
所在地	みなとみらい3丁目1番1号
総資産	13兆6,306億円(単体) 13兆8,320億円(連結)
預金	11兆8,683億円(単体) 11兆8,292億円(連結)
貸出金	9兆5,051億円(単体) 9兆4,535億円(連結)
資本金	2,156億28百万円
発行済株式総数	1,292,071千株
総自己資本比率	13.37%(速報値) (連結ベース：国際統一基準)
従業員数	4,612人
拠点数	614
[国内]	609(本支店196、出張所8、無人店舗 (ATMコーナー405))
[海外]	5(支店1、駐在員事務所4)

(平成26年3月31日現在)

トップインタビュー

代表取締役頭取

寺澤辰磨



CONTENTS

私たちの約束	1
トップインタビュー	3
決算ハイライト	7
はまぎんの1年間を振り返る	9
地域とともに歩んできた はまぎん	11
株主の皆さまとともに	13

平成25年4月から新中期経営計画 「Tackle for the Dream」を開始 頭取 寺澤辰磨が、横浜銀行の『いま』

Q. 新しい中期経営計画が始まって1年が経過しました。 進捗はいかがですか？

A. 横浜銀行は、平成25年4月より中期経営計画「Tackle for the Dream」(平成25年4月～平成28年3月)をスタートさせ、「お客さまの問題解決に資するソリューションを提供し、お役に立つことで、お客さまに選ばれる銀行をめざしていく」、「特に、地域のお客さまとの接点拡大・取引の深化を追求し、さらなる成長をめざしていく」、「健全性、収益性、成長性のバランスが取れた銀行をめざしていく」の3つを経営目標として掲げ、目標

平成27年度における目標指標	平成25年度実績	
個人メイン先数(※)	250万人程度	230万人
役務取引等利益比率(連結)	22%程度	22.9%
当期純利益ROE(連結)	7%程度	7.1%
当期純利益RORA(連結)	0.8%程度	0.91%
普通株式等Tier1比率(連結)	11%程度	11.97%
OHR(単体)	40%台後半	47.6%
与信関係費用比率(単体)	0.15%程度	0.13%

(※)「個人メイン先数」は、当行を中心にご利用いただいているお客さまの数(当行定義)。

した横浜銀行。 をお話しします。

の達成に向けて諸施策に取り組んでまいりました。その結果、中期経営計画1年目の平成25年度は、7つの目標指標のうち、個人メイン先数の増加は目標を下回りましたが、6つの指標において目標水準を維持しました。

Q. 中期経営計画初年度の平成25年度決算について教えてください。

A. 平成25年度決算は、銀行の本来業務からの収益を示す業務粗利益が2,031億円と5年ぶりに前年度比8億円の増加となりました。低金利環境のもと国内資金利益

は減少しましたが、株式相場の上昇もあり、投資型商品の販売額が過去最高となったこと、お客さまとの接点拡大による各種サービスの提供が増えたことなどにより役務取引等利益が増加し、また、分散投資へのシフトなど効率的なポートフォリオの構築により市場運用収益が増加し、収益を押し上げました。

当期純利益は、株式関係損益の改善に加え、与信関係費用の低下などから、前年度比54億円増加の587億円となりました。また、剰余金の配当については、連結当期純利益が前年度比53億円増加の606億円と、利益還元方針に定めた業績連動基準の550億円を超えたことから、1株当たり1円の特別配当を実施することとし、安定配当の普通配当金11円と合わせ、1株当たり12円としました。

貸出金および預金については、お客さまへのコンサルティングや接点の拡大に努めたことで、国内貸出金平均

中期経営計画

Tackle for the Dream

(平成25年4月~平成28年3月)

長期ビジョン実現に向け、「磐石な営業基盤」を拡大・深化させ、
「強靱な経営基盤」を維持・強化していく3年間

【特に注力すること】
RORA[※]向上
ノンアセットビジネス
コンサルティング
クロスセル
本部ダイレクト営業
※RORA=リターン・オン・リスクアセット

長期ビジョン

お客さま、株主、行員、地域社会にとって
魅力あふれる金融機関

残高は前年度比2.04%増加の9兆3,829億円、国内預金平均残高は前年度比4.17%増加の11兆2,954億円と引き続き堅調な伸びとなりました。

決算ハイライトについては、本誌7-8ページをご覧ください。

平成25年度の各種取り組みについては、本誌9-10ページをご覧ください。

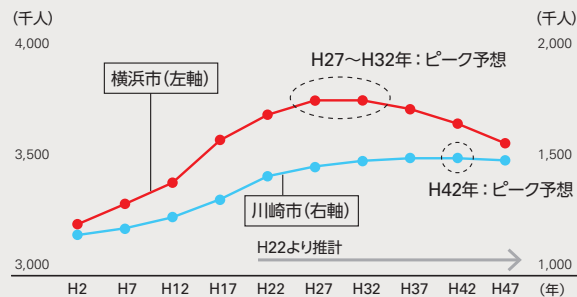
定されました。

また、今後とも圏央道や新東名高速、リニア中央新幹線など交通インフラの拡充が計画されているほか、平成32年に開催される東京オリンピックに向けて、経済波及効果の高い国際会議の誘致や外国人観光客の増加なども見込まれています。

成長ポテンシャルの高い神奈川県

- ① 総人口(平成25年10月)
907.9万人(2位/47都道府県)(東京、**神奈川**、大阪)
- ② 県内総生産(平成22年度)
29.8兆円(4位/同)(東京、大阪、愛知、**神奈川**)
- ③ 学術・開発研究機関数(平成21年)
559か所(2位/同)(東京、**神奈川**、大阪)
- ④ 開業率(平成21~24年)
3.40%(3位/同)(東京、沖縄、**神奈川**)

横浜市、川崎市の将来推計人口



Q. 横浜銀行の経営地盤である神奈川県について、どのようにお考えですか？

A. 神奈川県は、今後も人口の増加が見込まれ、経済規模をあらゆる指標は全国で上位に位置するなど成長ポテンシャルが極めて高い地域です。

平成26年5月には、アベノミクスの成長戦略の目玉政策である「国家戦略特区」に、神奈川県全域が正式に指

Q. 全国でもトップクラスのポテンシャルを有する神奈川県において、横浜銀行の貸出はどのような点に注力されていきますか？

A. 神奈川県内の貸出金シェアは、個人部門を中心に伸ばした結果、平成26年3月末で32.9%と着実に上昇しています。地域に根ざした銀行として、神奈川県内のお客さまにお選びいただくよう努めることにより、中期

経営計画で掲げる個人メイン先数の目標達成に注力いたします。

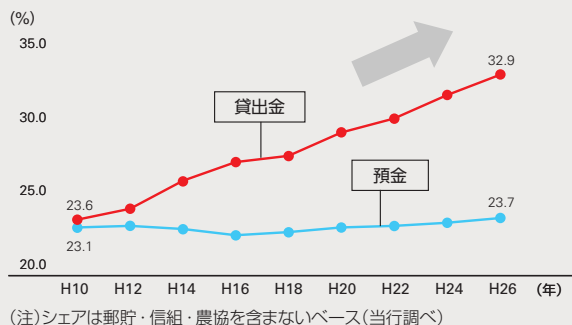
平成26年4月より営業ブロックを細分化しブロック営業本部長を増員し、お客さまとの接点をより密接にいたしました。これにより、従来以上にお客さまのニーズに適切に対応し、お客さまに最適なソリューションを提案していきます。

Q. 最後に株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

A. 皆さまには、日頃より横浜銀行をお引き立ていただきとともに、温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

横浜銀行は、経営ビジョンとして、「お客さま、株主、行員、地域社会にとって魅力あふれる金融機関」をめざ

神奈川県内シェアの推移(貸出金・預金)



そのため、横浜銀行グループや外部機関の力を結集して、法人のお客さまには、事業承継、M&A、ビジネスマッチングや、環境、医療・介護、農業などの成長分野を支援し、個人のお客さまには、相続や信託を活用した財産管理などお客さまが抱える問題解決を支援し、具体的にお役に立つ銀行をめざしてまいります。

し、その実現に向け「磐石な営業基盤」を拡大・深化させ、「強靱な経営基盤」を維持・強化してまいります。

横浜銀行が株主の皆さまにとって魅力あふれる金融機関であり続けるために、全役職員一丸となって企業価値向上に取り組み、ご期待にお応えできるよう最大限の努力を尽くしてまいります。引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

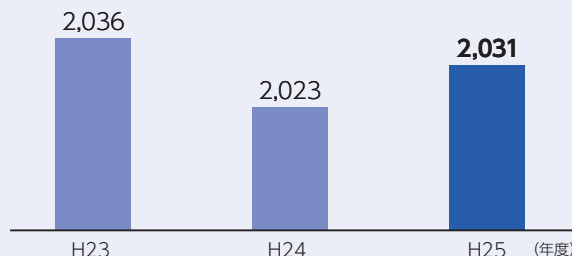
収益性

業務粗利益

2,031 億円

前年度比+8億円

中期経営計画の諸施策の実施により、
5年ぶりに増加に反転。

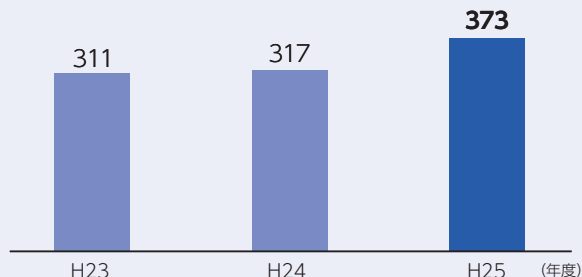


国内役務取引等利益

373 億円

前年度比+56億円

投資型商品の販売額が過去最高となったほか、
法人貸出関連役務が増加。



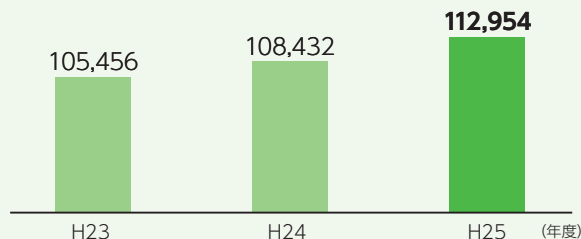
成長性

預金(平均残高)

11兆2,954 億円

前年度比+4,522億円

メイン化の推進に努めた結果、
個人預金、法人預金ともに増加。

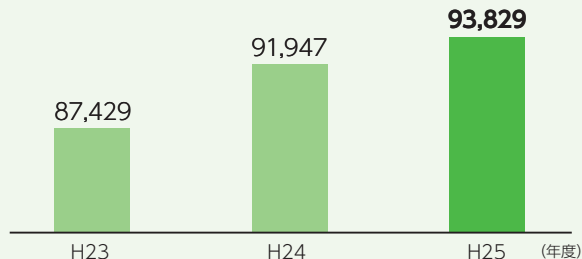


貸出金(平均残高)

9兆3,829 億円

前年度比+1,882億円

成長分野向け融資やアパートローンの実行額は
過去最高を更新し、貸出金は増加。



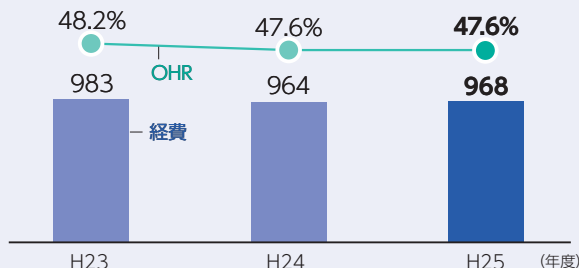
※ 特別国際金融取引勘定を除く国内店分

※ 特別国際金融取引勘定を除く国内店分

OHR(業務粗利益経費率) **47.6%**

前年度比±0.0%

ローコスト・オペレーションにより、
邦銀トップクラスの低水準を維持。

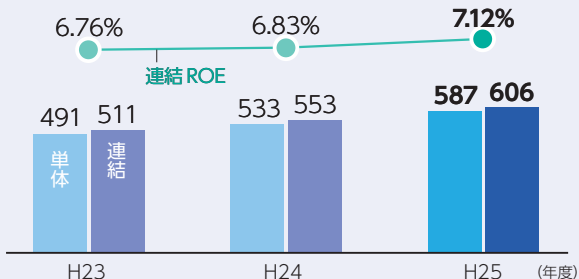


当期純利益(連結)

606億円

前年度比+53億円

リージョナル・リテール業務に特化した
営業活動の徹底により、収益力は強化。



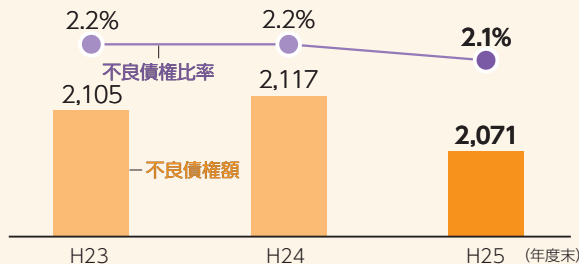
健全性

不良債権比率

2.1%

前年度末比△0.1%

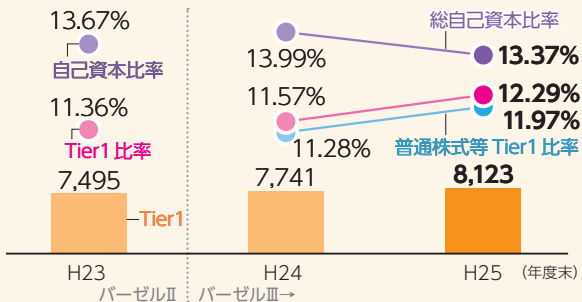
取引先の経営改善支援により、
金融再生法導入(平成10年)後、最低水準に低下。



普通株式等Tier1比率(連結) **11.97%**

前年度末比+0.69%

利益の積み上げにより、普通株式等Tier1比率は、
引き続き適正な水準を維持。



はまぎんの1年間を振り返る(平成25年4月～平成26年3月)

社会の変化に対応したお客さまのニーズにお応えすべく、平成25年度もさまざまなことに取り組んでまいりました。その1年間の歩みをご紹介します。

NISA(ニーサ、少額投資非課税制度) 口座開設のお申し込み受付開始

NISA口座開設のお申し込みを一部店舗・出張所を除く本支店と、〈はまぎん〉マイダイレクト(インターネットバンキング・テレフォンバンキング)にて受付開始しました。



平成25年

4月
April

5月
May

6月
June

7月
July

8月
August

9月
September

日本政策金融公庫との農林水産 業育成にかかわる業務協力

ビジネスマッチングを通じた6次産業化支援や経営支援などにより、県内の農林水産業および関連産業分野の育成・発展に貢献するため、日本政策金融公庫との連携をより一層深めました。



物価連動国債ファンドの販売開始

アベノミクスなどを背景にデフレからの脱却に向けた政策が実施される中で、インフレからお客さまの資産の価値を守る有効な選択肢として、わが国の物価連動国債を主たる投資対象とする「日本物価連動国債ファンド」の販売を開始しました。



平成25年度 「均等・両立推進企業表彰」の受賞

意欲のある女性の役職者への登用を推進するなど、職場における女性の能力発揮を促進するための積極的な取り組みが評価され、「均等・両立推進企業表彰」の「厚生労働大臣優良賞」を受賞しました。



「はまぎん ども宇宙科学館」に スペース・シミュレータ寄贈

横浜銀行がネーミングライツ(命名権)スポンサーである「はまぎん ども宇宙科学館」(横浜市磯子区)の開館30周年を記念し、スペースシャトルの操縦や宇宙ステーションでのミッションなどを疑似体験することができる、スペース・シミュレータを寄贈しました。



10月
October



11月
November

12月
December

平成26年
1月
January



2月
February

3月
March

「くはまぎん」環境格付融資制度」 第1号案件の融資実行

企業の皆さまの環境に配慮した取り組みを横浜銀行独自のモデルで評価したうえで、評価結果に応じて「環境格付」を決定し、所定の金利の差し引きを適用する融資制度「くはまぎん」環境格付融資制度」の第1号案件を実行しました。



横浜銀行カードローンの 取扱開始

お申し込みからご契約までご来店が不要で、審査結果が最短で即日回答可能な「横浜銀行カードローン」の取り扱いを開始しました。



浜銀TT証券と横浜銀行の 共同店舗を横須賀に開設

浜銀TT証券との共同店舗化により、銀行・証券の質の高い「ワンストップサービス」をスムーズにご提供できる環境を整備しました。



はまぎん歴史館

横浜銀行は地域とともに、成長してまいりました。
その歩みを神奈川県歴史とともに、振り返ります。

横浜銀行の出来事

1869

日本初の近代的金融機関 として、横浜為替会社設立

開港間もない横浜に誕生した横浜為替会社は、横浜商人たちの旺盛な資金需要に応じ、貸出を増大させていきました。



1920

横浜興信銀行設立

地元財界の総意のもと、横浜最大の普通銀行であった七十四銀行の破たん処理のため設立しました。



1920年12月末
預金残高
993万円

1928

第二銀行の 営業譲渡を受ける

横浜為替会社を前身とする第二銀行を受け継ぎ、日本で最も歴史の長い銀行となりました。



1945

神奈川県唯一の 地方銀行となる

横浜興信銀行は、政府の「一県一行主義」の下、これまでに31行の銀行と合同し、神奈川県唯一の地方銀行となりました。

神奈川県の出来事

1869年（明治2年）

- ◆ 東京・横浜間に電信が引かれる。
- ◆ 馬車道で町田房蔵が日本初のアイスクリームを製造販売。

1872年（明治5年）

- ◆ 日本初の鉄道が新橋から横浜（現桜木町）間で開業。

1920年（大正9年）

- ◆ 第1回箱根駅伝開催。

1945年（昭和20年）

- ◆ 横浜大空襲。
- ◆ 太平洋戦争終結。

1961年（昭和36年）

- ◆ 横浜マリントワー竣工。

1957



横浜銀行へ行名変更

「横浜市に本店を置く唯一の普通銀行」といった理由により、「横浜銀行」と名称を改めました。同時に新しい行章として、港都横浜を象徴する3隻の船をかたどった「スリーシップス」を採用しました。

1969

預金残高が地方銀行 トップとなる

神奈川県経済のきわめて高い成長力などを背景としながら、横浜銀行は順調な発展を遂げ、預金残高が地方銀行トップとなりました。

2014年3月末
預金残高
11兆8,683億円

2014

あなたのそばで、夢みる未来。

ペンギンキャラクターの名前が「はまペン」に決まりました。地域の銀行として、人生に寄り添う銀行として、地域の皆さまの幸せをますます応援してまいります。



1961

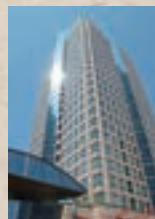
東証一部へ上場

東京証券取引所市場第一部に上場され、第一部銘柄661社の一員となりました。

1993

現本店竣工

高さ152.50m、28階建の高層棟と4階建の低層棟の2棟で構成された本店ビルが竣工しました。低層棟にはコンサートなどができる多目的ホール「はまぎんホール ヴィアマール」を設けました。



1969年（昭和44年）

- ◆ 「ブルーライト・ヨコハマ」が大ヒット。第11回日本レコード大賞・作曲賞受賞。

1989年（平成元年）

- ◆ 横浜博覧会開催。

1993年（平成5年）

- ◆ 横浜・八景島シーパラダイス、横浜ランドマークタワーオープン。

2006年（平成18年）

- ◆ 神奈川県が人口が大阪府を抜いて全国2位となる。

2014年（平成26年）

- ◆ 神奈川県全域が「国家戦略特区」に正式に指定。
- ◆ 「Fujisawa サスティナブル・スマートタウン」が街開き。

横浜銀行は株主の皆さまに対する利益還元の実施を重要な経営課題と位置づけております。

まずは株主の皆さまに横浜銀行を知っていただくための情報開示に努め、そして横浜銀行を支えていただいている株主の皆さまのために積極的な還元をめざしていきます。



IR担当者からのメッセージ



株主の皆さま、はじめまして。横浜銀行経営企画部の松尾です。
日頃より、横浜銀行をお引き立ていただきまして誠にありがとうございます。
私たち経営企画部は、個人の投資家の皆さまに横浜銀行の業績や活動、利益還元方針などをご説明するために、各所で説明会を開催しております。
質疑応答の時間も設けておりますので、ぜひ足をお運びいただき、投資家の皆さまの生の声をお聞かせください。

平成25年度個人投資家向け説明会開催実績

日にち	場所
7月31日	ヨコハマ グランド インターコンチネンタルホテル
8月21日	メロンディアあざみ野
9月 4日	大和証券株式会社 本店
9月 6日	三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 小田原支店
9月13日	三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 横浜西口支店
10月3日	二俣川相鉄ライフ
2月14日	新都市ホール
3月 7日	横浜銀行 横須賀支店
3月12日	三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 湘南支店
3月13日	横浜銀行 相模大野支店



個人投資家向け説明会の様子

今後のスケジュールについては、横浜銀行ホームページをご覧ください。

Point 利益還元に関する私たちの考え

当行は平成17年3月期より、従来の安定配当の考え方を堅持しつつ、業績連動型の配当方針を導入しています。

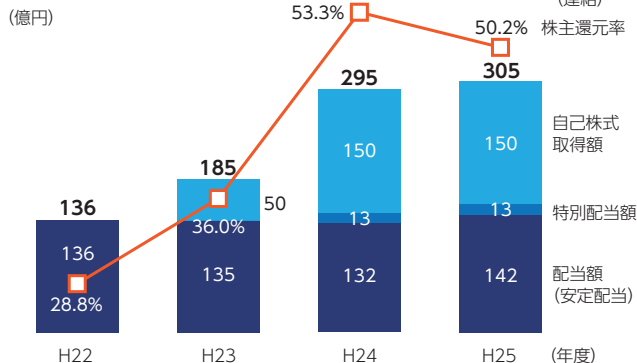
平成27年3月期の利益還元方針は、普通配当金として業績にかかわらず年11円を安定的にお支払いいたします。内訳としては、中間配当金として半分の年5.5円、期末配当金として残りの年5.5円をお支払いいたします。また、市場動向や業績見通しなどを勘案のうえ、機動的な自己株式の取得を実施してまいります。なお、年度の連結当期純利益が550億円を上回る場合には、特別配当を実施いたします。

配当金額の推移

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
1株当たり年間配当金	10円00銭	10円00銭	11円00銭	12円00銭
1株当たり中間配当金	5円00銭	5円00銭	5円00銭	5円50銭
1株当たり期末配当金	5円00銭	5円00銭	6円00銭	6円50銭
配当性向(※)	29.92%	27.41%	27.21%	26.34%

(※)配当金総額を単体当期純利益で除して算出しております。

株主還元額の推移



株式のご案内

事業年度と配当金のお支払い

事業年度…毎年4月1日から翌年3月31日まで

剰余金の配当等の決定機関…取締役会

●剰余金の配当基準日

1. 期末配当基準日：3月31日

2. 中間配当基準日：9月30日

定時株主総会

毎年6月

●定時株主総会の基準日…3月31日

公告方法

電子公告 (http://www.boy.co.jp/k_t/koukoku.htm)

ただし、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株式事務取扱場所

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
(特別口座の口座管理機関) 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話0120-232-711 (フリーダイヤル)

各種お手続きについて

住所変更、配当金受取方法の指定・変更、単元未満株式の買取増請求などのお手続きは以下のとおりとなります。

- ・一般口座(証券会社の口座)に記録された株式
お取引の証券会社にお問い合わせ願います。
- ・特別口座(三菱UFJ信託銀行の口座)に記録された株式
上記の三菱UFJ信託銀行までお問い合わせ願います。

※未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

<ブランドスローガン>

Afresh

あなたに、あたらしく。

“Afresh(アフレッシュ)”は、「あらたに」「再び」「さらに」を意味し、
単にあたらしさをめざすのではなく、今あるものを
「より良いもの」へと高めていく姿勢や動きを示す言葉です。
“あなたに、あたらしく。”を加え、「お客さま一人ひとりに、最適な形で、
あたらしく(Afresh)」の意味を込め、既成概念にとらわれず、お客さまの
思いや願いを実現していきたいという私たちの意志を表しています。



Bank of Yokohama

横浜銀行

平成26年6月

発行 横浜銀行 経営企画部広報CSR室
〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1
TEL (045) 225-1111(代表)
インターネットホームページ <http://www.boy.co.jp/>

